

九条北小学校 校長室だより

NO.46 令和2年7月20日



九条北小学校の6年生児童2人が、軟式野球で大阪代表に選出され、全国大会に出場することになりました。本日の児童朝会で、全校児童に紹介し、みんなから励ましの拍手を贈りました。出場する2人の児童は、「がんばってきます!」「ぜったい優勝します!」という力強い決意表明をしてくれました。2人の活躍を期待しています。(西区役所のホームページにも掲載していただきました。【西区役所>まちづくり>わがまち掲示板】でご覧いただけます。こちらからもご覧いただけます。

(<https://www.city.osaka.lg.jp/nishi/category/3158-7-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>)

★ 代表委員による「あいさつ運動」を実施します! ★

来週7月27日(月)より、代表委員が登校時の「あいさつ運動」をします。今日の児童朝会でも、代表委員から説明がありました。



実は、今回、代表委員の児童たちのアイデアで、新しい取り組みをすることになりました。朝の登校時に、気持ちの良い挨拶をした児童には、代表委員より「あいさつカード」が渡されます。各クラスに「あいさつ袋」を設置し、その中にカードを集めていきます。定期的集計し、「あいさつ運動」の成果が見える形にしてくれると、聞いています。

★ 茨住吉神社の「焼け楠」 ～平和について考える～ ★

茨住吉神社の境内の本殿の東側にある楠のことです。戦前(昭和初期)で樹齢約700年と言われている程大きなものであったようですが、大阪大空襲により幹の大半が焼けてしまったそうです。しかし、焼けたままの姿でも御神木として今なお保存され、そばに小さな社が造られて信仰されています。階段がそばにあって大きさや悲惨さはわかりにくいですが、空襲の恐ろしさを訴えています。

茨住吉神社は、江戸初期の寛文元年(1624)に九条島の土地が開発されたのを、代官の香西哲雲と開発者の池山新兵衛が船舶の安全と新田の繁栄を願って住吉の四神を勧請したのが始まりだそうです。この神社の由緒記には、この付近が少し高くなっており、そこに楠あり、その傍に祀られていた小さな祠がこの神社の始めではないかと書かれているとか。江戸後期の浮世絵の「浪花百景」シリーズにはこの神社があるほど有名でしたが、昭和20年(1945)3月13～14日の大阪大空襲で、神輿庫一棟を残し、ことごとく焼失したとのこと。氏子もほとんど空襲で焼け出されてしまいその後は大変だったようです。

現在の社殿は昭和40年(1965)、鳥居などは昭和46年(1971)に完成。神社名は、灘の住吉神社即ち摂津菟原郡(うばら)の住吉神社から分社されたので「うばら」から「いばら」になったという説と、神社の出来た頃周囲に「いばら」が多かったという説とがあるそうです。

「楠」に戻りますが、現在では、大阪に残る戦跡の一つとして、平和学習の教材として、たくさんの人たちが訪れます。

